

総合図書館 清教リブラリア

2021 年度 事業報告

- ・ 貸出冊数回復：清教中は公立中の 5.6 倍
- ・ 卒業論文「なんでやねん」から『マイテーマの探し方』出版される
- ・ 文科省調査研究事業の報告書まとまる
- ・ 全国の学校図書館との連携行事「ほんトーク」2年目に

清教学園中・高等学校 図書館教育

2022 年 5 月 23 日

目次

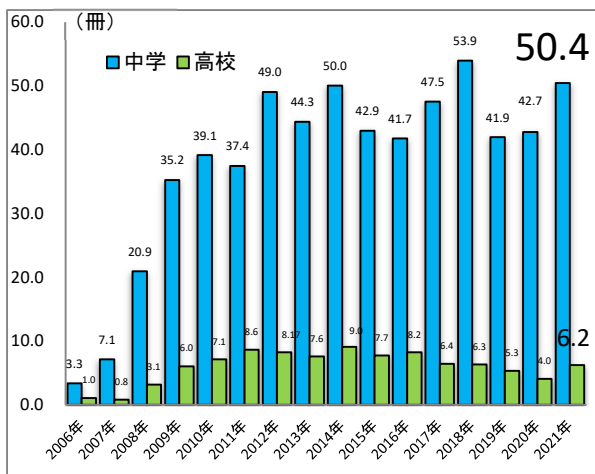
I	トピックス	p. 2
	・貸出冊数回復：清教中は公立中の5.6倍	
	・卒業論文「なんでやねん」から『マイテーマの探し方』出版される	
	・文科省調査研究事業の報告書まとまる	
	・全国の学校図書館との連携行事「ほんトーク」2年目に	
II	施設概要	p. 4
III	資料統計	p. 4
IV	利用統計	p. 6
V	2021年度の記録	p. 10
	第25回 図書館を使った調べる学習コンクール 受賞	
	大阪府統計グラフコンクール 大阪府知事賞 団体奨励賞 受賞	
	第6回 大阪府中高生ビブリオバトル大会（中学生大会）で決勝4名に選出	
	2022年 ブックフィルムフェスティバルコンテストで3名が受賞	
	第8回高校生直木賞オンライン本選会に参加	
	「ちいさいおはなし会」再開、高校へも	
	宗教部・リブラリア共催「クリスマス会」実施	
	学級文庫「すくどの本」、高校へ	
	高校生有志の「絵本読み聞かせ会」実施	
	高校「朝の読書」「GlobalStudiesⅡ」にて「おためし読書」を実践	
VI	課題	p. 19
VII	図書館リブラリアの歩み	p. 21
付録	文部科学省「令和3年度 学校図書館の活性化に向けた調査研究」	p. 22

I トピックス

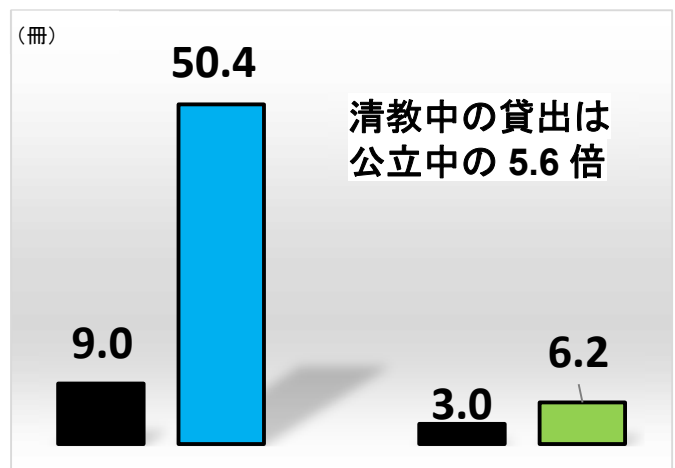
貸出冊数回復：清教中は公立中の5.6倍

貸出冊数は全体としてコロナ禍以前の数値に向けて回復傾向にあります。2021年度のひとりあたりの年間貸出冊数は中学で50.4冊/年と昨年と比較して7.7冊の大幅増となりました。統計を取り始めてから歴代二位の記録であり、2年ぶりの50冊台の回復です。一方、高校は文科省委託研究事業の成果が実り6.2冊/年と2.2冊増となり2014年度をピークにした長期の低落傾向に歯止めがかかりました。

振り返って、文部科学省の2020年度（令和2年度）「学校図書館の現状に関する調査」によれば、公立学校図書館における1人あたりの年間貸出冊数は、中学校9冊、高校3冊でした。比較すると、清教学園は中学では全国平均の5.6倍、高校では2.1倍の貸出を記録しています。要因として考えられるのは、日常的な読書に加えて総合的な学習の時間での活用、特に卒業論文での貸出が大きいと予想されます。「清教生は本をよく読む、本でよく学ぶ」と言い切ってさしつかえありません。



生徒1人当たりの年間貸出点冊数の推移



公立学校との比較 中学校(左)高校(右)

卒業論文「なんでやねん」から『マイテーマの探し方』出版される

『マイテーマの探し方：探究学習ってどうやるの』は、2021年11月に筑摩書房から発行されました。「ちくまプリマー新書」の下の世代を対象にした「ちくまQボックス」の一冊です。2018年の『中高生からの論文入門』（講談社現代新書）を、わかりやすくした探究学習のガイドでもあります。初版5000部で2022年明けに二刷がでています。

この本では、生徒たちがもっとも悩むテーマ設定について、どう取り組むべきか、何が難しいのかを、多くの事例を挙げながら解説しています。もともとなったのは総合学習の卒業論文「なんでやねん」の授業で配布したプリントです。



文科省調査研究事業の報告書まとまる

文科省の委託研究事業「令和3年度 学校図書館の活性化に向けた調査研究」を受託。「なぜ探究学習で学校図書館が活用されないのか:探究学習と図書館活用のギャップを埋める授業実践の検討」をテーマに、1年間の研究を行いました。「①高等学校の探究型学習において、なぜ学校図書館が使われ辛いのかを明らかにする」「② どのような授業設計や資料支援体制が必要かを検討する。検討した結果を授業で実践する」「③実践効果を検証し、学校図書館が探究型学習に対して行う効果的な資料支援体制を開発する」ことを目標とし、清教学園高校2年生の授業で図書館活用を行いました。この研究の成果が実り、スタッフが授業を担当した高2生のクラスにおける、2021年度の一人当たりの貸出冊数(ノンフィクション)が、4.8冊増加しました。(詳細は p. 22)

成果

① 一人あたりの年間貸出冊数が増加
高2生の貸出統計を比較。司書教諭担当学級では前年より4.8冊増加した。(生徒が研究に使用した0~8類を対象に分析)



② グループあたりの「参考図書」増加
高2生学習成果物の「参考文献一覧」を比較。記載図書冊数が、司書教諭担当学級では前年度より5.1冊増加した。

	2020年度	2021年度	2021年度
		教科教諭担当学級	司書教諭担当学級
図書資料数	0.2	0.8	5.3
Web資料数	2.7	4.1	2.0
資料合計数	2.8	4.9	7.2

全国の学校図書館との連携行事「ほんトーク」2年目に

清教生と他校の生徒が、学校の枠を超えて、遠隔でトークライブを行うという取り組みも2年目になりました。現在参加校は、関大中高、渋谷教育学園渋谷中高、昭和女子大学付属昭和中高、水都国際中高、青翔開智中高、千里国際中高、玉川聖学院中高、津和野高、ドルトン東京中高、浪商中高、ノートルダム清心中高、広島叡智中高に清教学園中高を加えた13校。今年度は5回開催しました。清教学園がホストになったのは、5月31日の高校生編「みんなにおススメしたい本」、6月7日の中学生編「みんなにおススメしたい本」、9月27日の「絵本」の3回。12月13日は昭和女子大学付属中高がホストとなり「冬を感じられる本」、2月28日は青翔開智さんがホストで「本で旅しよう」がテーマとなりました。これらの活動は「学図研ニュース」第423号(2021.5.1号)と、「図書館教育ニュース」第1587号(2022.2.28号)に掲載されました。



清教生と他校の生徒が遠隔でトークライブ。ホスト校がテーマを決め学校の枠を超えて交流。

II 施設概要

名称：総合図書館 清教リブラリア

所在地：〒586-8585 大阪府河内長野市末広町 623

Tel：0721-62-6828（内線 28、29）HP：<https://www.seikyo.ed.jp/>

ツイッター：<https://twitter.com/seikyolibraria>

理事長・チャプレン：井上良作 中学高校・校長：森野章二

中学高校・副校長：菊岡秀行 中学・教頭：慎繁範 高校・教頭：安藤浩明

図書館教育：片岡則夫（探究科教諭）山根美智子（司書）南百合絵（司書教諭）

山崎勇氣（司書教諭）上河博美（非常勤司書）前野昌子（非常勤図書館職員）

生徒数： 中学校 475 名（1 年 151 名 2 年 153 名 3 年 171 名）

高等学校 1179 名（1 年 422 名 2 年 401 名 3 年 356 名）

総生徒数 1654 名（昨年度 1660 名）

職員数 153 名

利用者合計 1802 名（昨年度 1820 名）

学級数： 中学校 12 学級 高等学校 29 学級 合計 41 学級

設置： 2002 年 4 月（「総合図書館清教リブラリア」として現在の位置で開館）

図書館：

床面積：約 256 m² カウンター 司書室を含む 座席数：20 席

書庫（スタディーホール・ホール上）

業務端末：7 台 生徒検索端末：2 台 無線 LAN iPad：3 台

蔵書管理システム： LibMax（ソフテック） 図書館発注システム： TOOLi-S（TRC）

総合学習室：

床面積：約 98.2 m²

座席数：44 席 生徒用 PC：45 台 無線 LAN

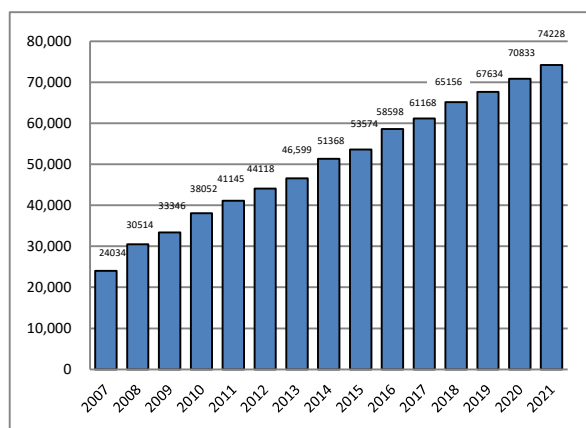
ラーニングコモンズ：

座席数：96 席 生徒用情報端末：Chromebook 200 台

III 資料統計

資料数は 74228 点

本年度リブラリアの資料数 74228 点となりました。2020 年度末より 3395 点の増加です。昨年提案しましたように、図書館の大規模なレイアウト変更が強く求められる状況が続いています。



1. 購入図書冊数

分類	総記	哲学	歴史・地理	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが絵本他	合計
冊数	92	101	416	496	439	232	170	379	61	718	22	3126
%	2.9	3.2	13.3	15.9	14.0	7.4	5.4	12.1	2.0	23.0	0.7	100.0

2. 購入視聴覚数 0点

3. 寄贈図書

分類	総記	哲学	歴史・地理	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが絵本他	合計
一般寄贈	10	11	24	32	14	5	5	71	23	153	132	480

※ まんが・絵本他には視聴覚資料2点を含む ※ PTA学級図書費購入分も含む

4. 遡及作業

分類	総記	哲学	歴史・地理	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが絵本他	合計
冊数	0	0	0	2	0	2	0	1	2	0	0	7

5. 生徒作品受入分

分類	総記	哲学	歴史・地理	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが絵本他	合計
冊数	2	1	0	11	9	10	9	13	2	0	57	2

6. 総受入冊数

分類	総記	哲学	歴史・地理	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが絵本他	合計
冊数	104	113	440	541	462	249	184	464	88	871	156	3672

7. 紛失図書の経年変化

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
紛失冊数	523 ※	137	79	148	207	144	164	112	194	145	100	100	50	46
紛失率(%)		0.41	0.21	0.36	0.47	0.3	0.3	0.21	0.3	0.24	0.16	0.15	0.07	0.06

年間紛失率＝年間紛失冊数÷蔵書冊数×100(単価1500円として)被害額69000円

※これまでの紛失図書の累計2151冊 被害総額約323万円

8. 配置別の蔵書数と割合

	1F書架 (すくど文庫含む)	書庫	すくどの本 (教室出張中)	その他 (教科/LC等)	全蔵書
冊数	60010	12432	847	939	74228
%	80.8	16.7	1.1	1.3	100

9. 廃棄数冊数 970冊 (昨年度1439冊)

10. 総蔵書数・蔵書構成

分類	総記	哲学	歴史・地理	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが絵本他	合計
生徒作品	52	37	74	245	312	313	312	361	32	31	-	1769
寄贈	247	321	435	640	619	220	164	576	376	3560	721	7879
蔵書合計	1895	3524	5355	9390	9276	5814	4744	8761	1953	21240	2276	74228
%	2.6	4.7	7.2	12.7	12.5	7.8	6.4	11.8	2.6	28.6	3.1	100

※生徒作品にはテキスト・年報を含む

※まんが・絵本他には視聴覚資料368点を含む

11. 生徒一人あたりの平均蔵書数 **44.9冊** (昨年度 43.0冊)

12. 教室設置図書(すくどの本)の蔵書数・紛失数

分類	総記	哲学	歴史 地理	社会 科学	自然 科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが 絵本他	合計
中学 (12クラス)	3	7	3	21	32	1	7	11	15	199	0	299
高校 (5クラス)	3	5	3	16	3	1	2	0	2	46	1	82
合計	6	12	6	37	35	2	9	11	17	245	1	381

13. 教室設置図書(すくどの本)の紛失数 **51冊** (昨年度 24冊) 全体に対する紛失率 **13.3%**

14. 雑誌(購入 23 誌・寄贈 2 誌)

アニメージュ	月刊ピアノ	ダ・ヴィンチ	ねこのきもち(寄贈)
(季刊)うかたま	THE BIG ISSUE JAPAN	鉄道ジャーナル	熱風
エアライン	私立中高進学通信	日経エンタテイメント	MOE
エル・グルメ	JICA's MAGAZINE World(寄贈)	News がわかる	ロッキングオン・ジャパン
オレンジページ(隔週)	週刊東洋経済	Newton	
学校図書館	進学通信(関西版)	ナショナル・ジオグラフィック日本版	
関西ウォーカー	スクリーン	Number	

15. 新聞(購入 3 誌)

読売新聞	毎日新聞	the japan times
------	------	-----------------

データベース

朝日けんさくくん	ジャパンナレッジ
----------	----------

IV 利用統計

貸出数中学・高校ともに大幅増

2021年度のひとりあたりの年間貸出冊数は全生徒で20.7冊/年となり昨年度より5.1冊幅増でした。中学が50.4冊/年と7.7冊の大幅増となりました。2年ぶりの50冊台の回復です。一方、高校は6.2冊/年と2.2冊増となり2014年度をピークにした長期の低落傾向に歯止めがかかりました。また総貸出数は34348冊で、昨年に比べて6657冊増加しました。ちなみに、全利用者数は昨年度より18名減少しています。

開館時間 月曜日～土曜日 8:10～18:00 ※長期休暇中は別に定める

開館日数 272日(前年度 252日)

授業利用時間 総合学習: 12時間/週(総合学習室)、社会演習: 4時間/週(総合学習室)、美術(随時)
ラーニングコモンズ: 中高 IPBL、高1情報の科学(探究編)等
スタディホール: キリスト教概論、保健体育、オンライン英会話、物理等

貸出方法・期間 貸出冊数：20冊まで／貸出期間：14日以内 ※長期休暇中は別に定める
年間総貸出冊数 34,348冊（昨年度 27,691冊）

利用者1人あたりの貸出冊数〔貸出密度〕（ ）は前年度

- 全生徒 20.7冊／年（15.6冊／年）
- 中学生 50.4冊／年（42.7冊／年）
- 高校生 6.2冊／年（4.0冊／年）
- 職員 11.1冊／年（11.9冊／年）

開館日1日あたりの貸出冊数：126.5冊（前年度 109.9冊）

蔵書1冊あたりの平均貸出冊数〔蔵書回転率〕：0.46冊（前年度 0.39冊）

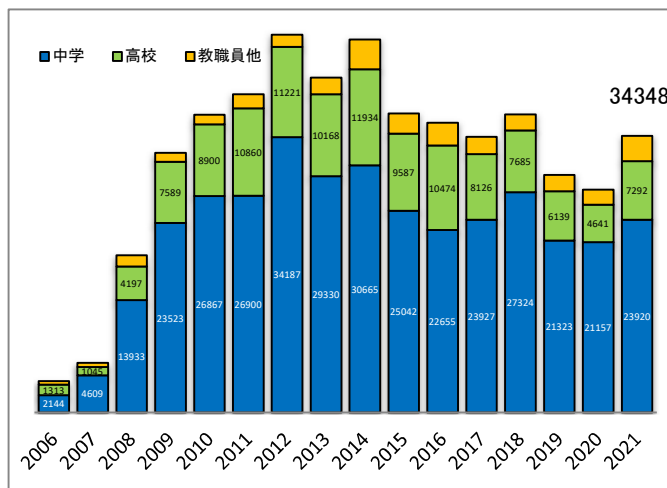
（蔵書回転率＝年間貸出冊数÷全蔵書冊数）

新しい本が図書館にどの程度入ったか〔蔵書新鮮度〕：4.9%（昨年度 5.6%）

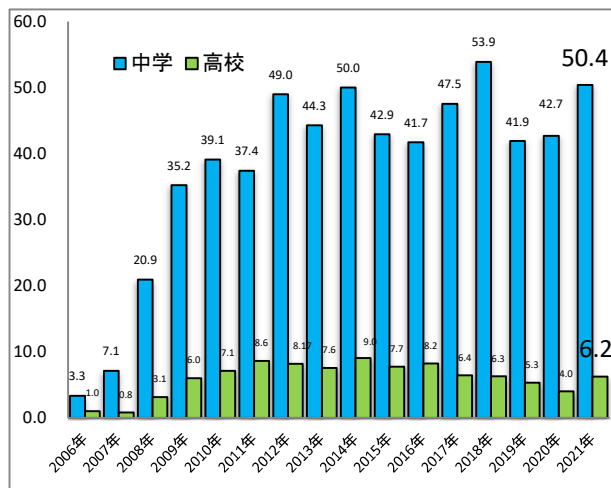
（蔵書新鮮度＝その年の蔵書受け入れ冊数÷全蔵書冊数×100：数値が高いほど書架に新しい本が多い）

複写申請数 54件（昨年度 56件）複合機によるデジタルスキャンの利用増加で減少継続

他館借受本 293冊（昨年度 290冊）河内長野図書館他



年間総貸出点数の推移



生徒1人当たりの年間貸出点数の推移

年間貸出統計 2021年度

	中1	中2	中3	中学生 貸出合計	高1	高2	高3	高校生 貸出合計	職員	教科他	総貸 出数	開館 日数	1日平 均	予約/ リクエスト
4月	1947	275	730	2952	491	243	181	915	171	414	4452	20	222.6	130
5月	1123	303	701	2127	270	323	222	815	120	282	3344	21	159.2	131
6月	1053	612	1396	3061	370	529	215	1114	196	314	4685	26	180.2	108
7月	1089	291	1183	2563	243	348	201	792	212	345	3912	24	163	104
8月	381	134	291	806	102	113	125	340	142	0	1288	25	51.5	28
9月	687	552	1322	2561	268	167	307	742	143	88	3534	24	147.3	62
10月	260	1189	919	2368	265	102	262	629	133	0	3130	25	125.2	108
11月	302	672	844	1818	228	116	198	542	104	0	2464	23	107.1	40
12月	602	401	804	1807	240	141	66	447	161	0	2415	20	120.8	54
1月	381	694	275	1350	160	58	62	280	76	0	1706	20	85.3	46
2月	233	561	207	1001	119	91	129	339	48	0	1388	18	77.1	43
3月	319	800	387	1506	197	71	69	337	187	0	2030	26	78.1	26
集計	8377	6484	9059	23920	2953	2302	2037	7292	1693	1443	34348	272	126.5	880

分類別貸出冊数と回転率

分類	総記	哲学	歴史地理	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	言語	文学	視聴覚	絵本	マンガ	その他	合計
貸出冊数	614	994	1421	3836	4733	3088	2077	5047	666	10232	59	215	1207	159	34348
分類別回転率	0.32	0.28	0.27	0.41	0.51	0.53	0.44	0.58	0.34	0.48	0.72			0.46	
蔵書回転率	0.01	0.01	0.02	0.05	0.06	0.04	0.03	0.07	0.01	0.14	0.02				

※ 「蔵書回転率」は蔵書1冊あたりの平均貸出冊数（蔵書回転率＝年間貸出冊数÷全蔵書冊数）

※ その他は他館からの借受本など。

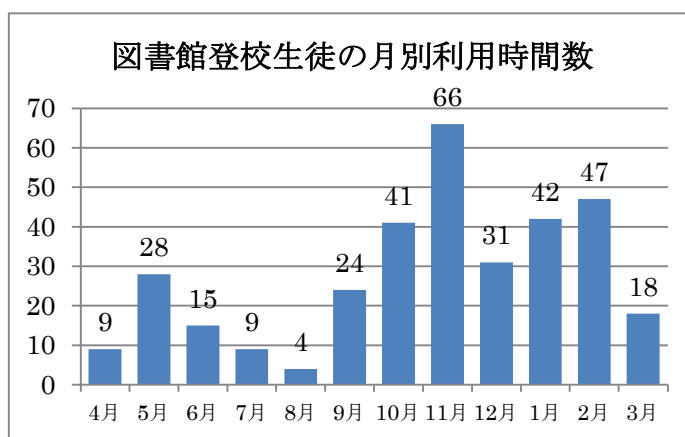
すくど文庫の分類別蔵書・貸出統計

分類	総記	哲学	歴史地理	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	言語	文学	絵本	合計
蔵書冊数	44	59	62	150	261	81	83	156	24	1480	2	2402
貸出冊数	43	52	16	108	193	64	59	71	6	621	0	1233
回転率	0.02	0.02	0.01	0.04	0.08	0.03	0.02	0.03	0.00	0.26	0.00	0.51

図書館登校生徒統計

年間利用日数：111日 利用生徒：20名
総利用時間数：297時間（校時）（2020年度46時間）

中学			高校			合計
1年	2年	3年	1年	2年	3年	
0	7	4	3	3	3	20



ラーニングコモンズ利用統計（放課後のみ・5年目）

開室日数：198日（昨年度155日）
総利用者数：5954人（昨年3514人）
開室日一日あたりの平均利用者数：30人/日（昨年度22.6人/日）
生徒ボランティア：63名（中学生29名/高校生34名）（昨年度21名）

今年度の開室日一日あたりの利用者数の平均は30人/日でした。コロナウイルスの感染が心配で帰宅する生徒も多く、開室しても全エリアを完全沈黙させる期間も長かったです。低調な利用の一方で、生徒のボランティアが今年度は63名となり、生徒が自身で運営できる自習室に成長しつつあります。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開室日数	15	18	24	19	6	22	23	17	16	12	15	11	198
開室時間(分)	2050	2779	3367	5076	1290	3149	3600	2702	4693	1985	2625	1885	35201
中学生(人)	142	107	289	148	33	147	338	107	269	84	76	70	1810
高校生(人)	229	483	604	392	140	613	619	426	276	80	109	67	4038
教職員(人)	2	9	3	9	1	9	10	9	16	6	3	4	81
見学者(人)	0	0	5	5	0	2	2	0	10	1	0	0	25
合計(人)	373	599	901	554	174	771	969	542	571	171	188	141	5954

2021年度ラーニングコモンズ月別来館者数

長期休暇中の利用 ()内は前年度

開館日数：35日(23日) 図書館内LED工事のため通常より約3日短縮。

入館者：中学生 839人(457人) 高校生 474人(198人) 教職員 151人(103人) 見学 147人(27人)

総入館者数：1611人(785人)

利用：貸出 848冊(564冊) 返却 621冊(606冊)

1日あたりの入館者：46人(34人)

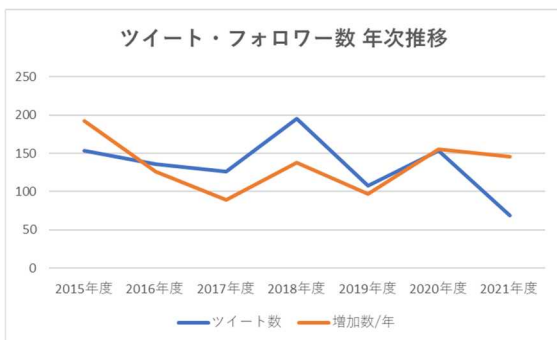
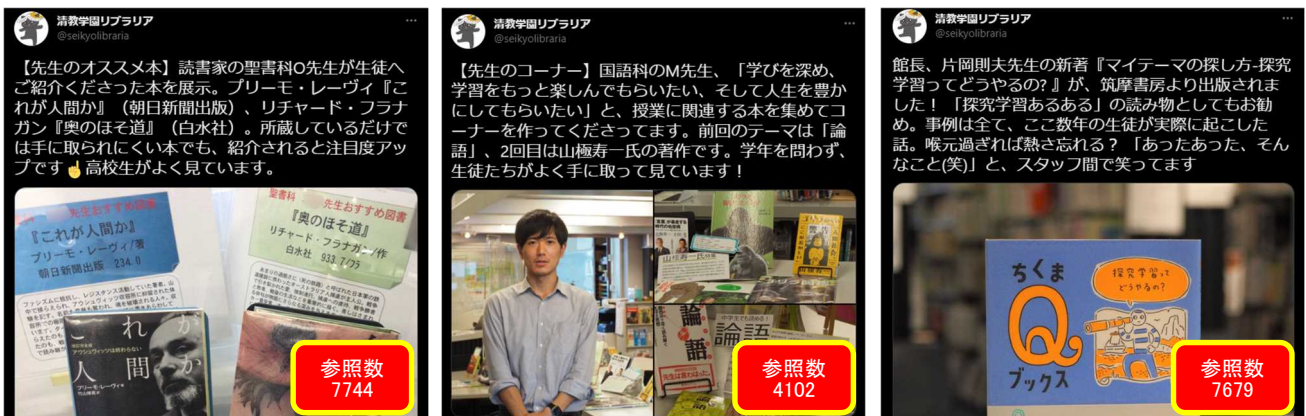
1日あたりの貸出数：24.2冊(25冊)

1日あたりの返却数：17.7冊(26冊)

リブラリア Twitter 統計 (7年目)

今年も「アナリティクス」というサービスで、ツイート数と話題になったツイートを分析しました。本年度のツイートは55件(昨年度153件)。図書館スタッフ数の減、業務量の増加に伴い、ツイッター開始以来最もツイート数の少ない年となりました。2021年度のツイート状況は、現在のリブラリアスタッフの多忙な状況を反映したものとなってしまいました。

一方、新規フォロワー数は146件(昨年度153件)と、順調に伸びています。SNSは投稿し話題になれば、人々の目に触れる機会が大幅に増えるツールです。そのため、投稿ネタもさることながら、投稿する頻度がやはり重要です。次年度以降もマメなツイートが優先事項です。



	ツイート数累計	ツイート数/年	フォロワー数累計	フォロワー増加数/年
2015年度	153	153	192	192
2016年度	289	136	318	126
2017年度	425	126	407	89
2018年度	620	195	545	138
2019年度	728	108	642	97
2020年度	881	153	797	155
2021年度	950	69	943	146

V 2021 年度の記録

リブラリアに関係した生徒作品の受賞等

【第 25 回 図書館を使った調べる学習コンクール】 主催：公益財団法人 図書館振興財団

優良賞 最終審査対象作品 調べる学習部門 高校生の部

『日本に IR を導入すべきなのか：諸外国の事例や今カジノ勧誘で論を交える専門家の意見から』 さん(高 1A)

中学総合学習で作成した卒業論文を、高校生になってさらに改訂し、今年度コンクールの「高校生の部」に応募。IR 導入が政治の議論にのぼるまでの流れを、90 年代前半から調査し、歴史的な流れで俯瞰しました。さらに、IR 導入で論を交える大阪維新の会と、日本共産党大阪府委員会、それぞれに取材依頼の手紙を送り、現役の大阪市議会議員と衆議院議員に、直接ロングインタビューする機会を得ました。双方の取材をもとに、自分なりの結論に辿り着いた力作です。



優良賞 最終審査対象作品調べる学習部門 中学生の部

『中二病は病気でなければなんなのか：病的な自己愛を伴う思春期の「本当の自分」探し』 さん(高 1A)

中学総合学習で作成した卒業論文を、今年度コンクールの「中学生の部」に応募。クラスの男子の「中 2 病っぽさ」に目をつけ、ネットスラングとして流通するその言葉が、発達心理ではどのように定義づけられるのか。「自己愛」をキーワードに検討しました。中 2 病の類型化、フロイトの心的装置理論を援用した分析、教育心理学者へのロングインタビューまで。身の回りの日常知と、学術理論との間を、縦横無尽に行きかう作品です。



佳作 調べる学習部門 中学生の部

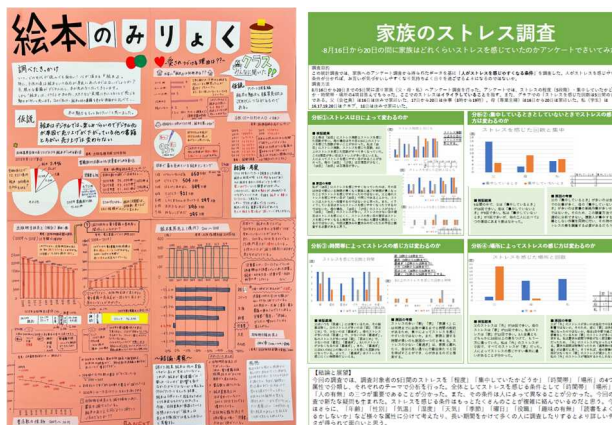
『食糧難になった時のために昆虫食の普及をどのように実現するか』 さん(高 1C)

中学総合学習で作成した卒業論文を、今年度コンクールの「中学生の部」に応募。かつてから虫好きで「どんな味がするのか」と気になっていたことから発展したテーマ。人口増加による食糧問題解決の糸口として、自分の虫好きに目をつけました。ほぼ未加工のコオロギとサソリを実際に自分で食べて分析する、体を張った調査を行っています。



【大阪府統計グラフコンクール 大阪府知事賞 団体奨励賞】

2017年度より参加している「大阪府統計グラフコンクール」にて、大阪府知事賞 団体奨励賞を受賞しました。中学2年生が総合的な学習の時間で学ぶ授業、「統計で世界を考える」が、継続したコンクールへの参加・質の高い授業の実践を認められた結果です。この授業で学ぶ統計を用いた考え方は、中学3年生の卒業論文執筆にも活かされています。



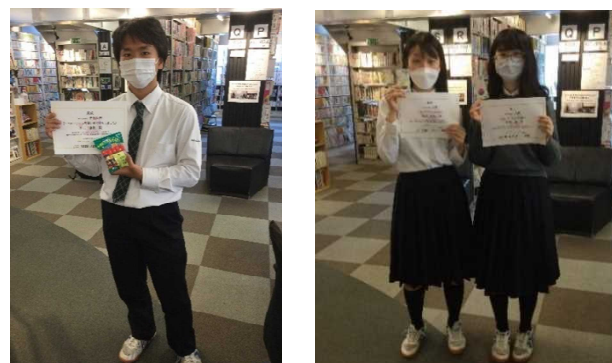
【第6回 大阪府中高生ビブリオバトル大会（中学生大会）で決勝戦に選出】

さん(中2C)が、大阪府の各校から選抜された20名の中で予選を通過して、清教学園から初めて決勝戦に進みました。コロナ禍で、練習もあまり出来ない中、落ち着いて発表し決勝戦で各ブロックから選ばれた4名と互角に戦いました。



【2022年 ブックフィルムフェスティバルコンテストで3名が受賞】

2022年のブックフィルムフェスティバルにおいて、清教生が活躍しています。高校生部門51作品の中から、さん(高1A)が「ほんトーク」で知り合ったさん(同志社女子高等学校1年)とペアを組み、Zoomでやり取りした作品が準優秀賞を受賞。田村麗さん(高1A)と栗原亜希さん(高1B)のペアも入賞しました。



【第8回高校生直木賞オンライン本選会に参加】

高校生直木賞は、全国の高校生たちが集まって議論を戦わせ、直近一年間の直木賞の候補作から「今年の1作」を選ぶ試みです。本選会はオンラインでの開催となり、北海道から鹿児島まで、過去最高の32校が参加しました。

5月6日(木)に校内選考会を行い、本校として推す本を候補作から決定しました。校内選考会にはさん(高2A)、さん(高1A)、さん(高1B)、さん(高1D)、さん(中1C)が参加。5点の候補作から、加藤シゲアキ『オルタネート』をおすことに決定しました。「いま」が描かれている、ということが決め手になったように思います。



5月30日（日）に行われた本選会には、さんが参加。13時から17時過ぎまでの議論の末、『オルタネート』（加藤シゲアキ）と『雲を紡ぐ』（伊吹有喜）の二作同時授賞と決まりました。高校生直木賞初の二作受賞という、大変ドラマチックでエキサイティングな選考会でした。選考会后、さんは「学校代表としてのプレッシャーがあつて緊張した。本の内容を自分の言葉で発信する参加者たちがすごいと思った」と語ってくれました。

【「ちいさいおはなし会」再開、高校へも（4年目）】

コロナ禍のため、昨年度は実施できなかった「朝の読書の時間」の「ちいさいおはなし会」を、語り手がマスクを着けたままで行うという形式に変更し、再開しました。各学年に複数回、コンスタントに実施することはできませんでしたが、中学70期生の「高校には来てくれないんですか？」という一言から、これまで中学校でしか実施していなかった「ちいさいおはなし会」を高校1年生でも実施することができました。

中1（73期）

4月：「馬方やまんば」（日本の昔話）/南

7月：「アナンシと五」（ジャマイカの昔話）/上河

中2（72期）

4月：「馬方やまんば」（日本の昔話）/南

5—6月：「アナンシと五」（ジャマイカの昔話）/上河

中3（71期）

6月：「ちいさなこげた顔」（アメリカの昔話）/南

3月：「寝太郎」（日本の昔話）/南

高1（54期）

6月：「ちいさなこげた顔」（アメリカの昔話）/南

リブラリアのクリスマス会

12月：「くるみわりのケイト」（イギリスの昔話）/南

【宗教部・リブラリア共催「クリスマス会」実施】

宗教部・リブラリア共催のクリスマス会は、感染対策に配慮しながらスタディホールで実施することができました。

第1部の先生のお話とコンサートは、中学生、高校生、先生方も含め70名近くが参加。先生、先生、先生の演奏に盛り上がりました。



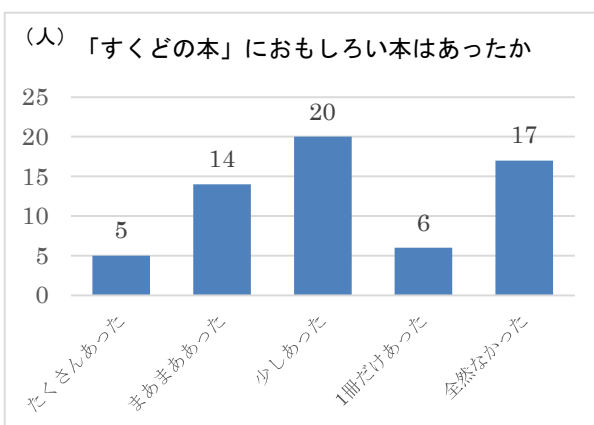
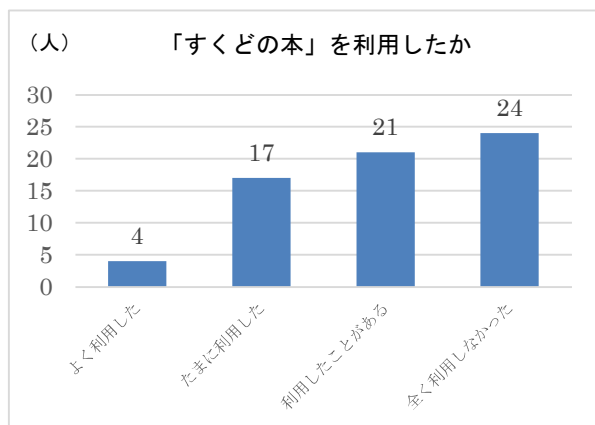
コンサート(左)とプラバンづくりの様子(中央・右)

第2部のおはなしとものづくりは10名が参加し、和やかな雰囲気の中、南のおはなし「くるみわりのケイト」を楽しみ、プラバンづくりに熱中しました。

【学級文庫「すくどの本」、高校へ（継続）】

高校の学級文庫を希望制で図書館が請け負うサービスも2年目となりました。2021年度は3学年5クラスに設置。先生の要望に応じて各教室に20冊程度本を準備し、テストごとに巡回しました。

年度末にはアンケートも実施し、66名が回答してくれました。「『すくどの本』やその続きを図書館で借りたことがあったか」という質問には、8名が「はい」と回答してくれました。高校生の利用促進は本館の継続的課題となっています。この取り組みが、高校生が図書館へ足を向ける機会の一つになってくれることを願い、次年度以降も継続します。



高校生に
読まれた本

順位	タイトル	人数
1	B-913.6-47-1『海辺のカフカ(上)』村上春樹著	5
	B-913.6-7カ『手紙』東野圭吾著	5
3	114.2-カ『「死」とは何か イェール大学で23年連続の人気講義』シェリー・ケーガン	4
4	B-933.7-ホカ-1『星を継ぐもの』ジェイムズ・P・ホーガン	3
5	319.8-イセ-4『世界のんびりと聞いた100通りの平和 シリーズ4 ヨーロッパ編』伊勢崎賢治監修	2
	B-913.6-シハ-1『項羽と劉邦 上』司馬遼太郎	2
	B-913.6-アヤ『くちなし』彩瀬まる	2
	B-933.7-ユル『蟻の王』ウィリアム・ゴールディング	2
	319.8-イセ-1『世界のんびりと聞いた100通りの平和 シリーズ1 中東編』伊勢崎賢治監修	2
	B-480.76-カ『動物翻訳家 心の声をキャッチする、飼育員のリアルストーリー』片野ゆか	2
	649-タム『珍獣病院 ちっばけだけど同じ命』田向健一	2
	B-649.04-タム『珍獣の医学』田向健一	2
	933.7-ホイ『ヒトラーと暮らした少年』ジョン・ポイン	2
14	B-913.6-ヤマ『ぼくは勉強ができない』山田詠美	1
	404-タキ『身近な疑問がスッキリわかる理系の知識』滝沢美奈子監修	1
	B-913.6-セオ『卵の緒』瀬尾まいこ	1
	B-933.7-サキ『サキ傑作選』サキ	1
	B-913.6-ミヤ-1『流転の海1部』宮本輝	1
	141.34-1タ『わかりやすい記憶力の鍛え方 脳を活性化させる習慣とテクニック』児玉光雄	1
	933.7-アウ『ぼくがいちばんききたいことは』アヴィ	1
	319.8-イセ-2『世界のんびりと聞いた100通りの平和 シリーズ2 アメリカ・アフリカ編』伊勢崎賢治監修	1
	B-913.6-ナカ『お父さんのバックドロップ』中島らも	1
	319.8-イセ-3『世界のんびりと聞いた100通りの平和 シリーズ3 アジア編』伊勢崎賢治監修	1
	B-913.6-ホノ-1『武士道シックスティーン 1』菅田哲也	1
	159.2-タキ『ミライの授業』滝本哲史	1
	309-トミ『みんなの「わがまま」入門』富永京子	1
	B-913.6-アリ『クジラの彼』有川浩	1
	913.6-イサ『逆ソクラテス』伊坂幸太郎	1
	B-913.6-オノ『ひと』小野寺史宜	1
	319-タト『大国の掟 「歴史×地理」で解さほぐす』佐藤優	1
	B-933.7-リュウ『紙の動物園』ケン・リュウ	1
	F911.56-マド『えいご・まどさん』まどみちお詩	1
	M-タチ『c o c o o n』今日マチ子	1

【高校生有志の「絵本読み聞かせ会」】

清教幼稚園「リブラリア探険」を手伝ってくれている高校生が、コロナ禍で「リブラリア探険」が実施できない中、絵本について学び合いたいと企画しました。(9/11@総合学習室)そうして実現したのが、好きな絵本を持ち寄り、読み聞かせし、感想を語り合う、絵本の会です。和気あいあいとした雰囲気の中、飛び入り参加者も加わり、読み手も聞き手も絵本を楽しみました。



【高校「朝の読書」「GlobalStudiesⅡ」にて「おためし読書」を実践】

高校生の図書館利用を促進するため「おためし読書」の機会を高校でも設けました。高1・高2「朝の読書」で各クラス1回、高2「GlobalStudiesⅡ」の授業で各クラス1回実施しました。1度のおためし読書で、クラスあたり平均貸出8冊という結果になりました。中学での活発な図書館活用により成長してきたリブラリアの蔵書は、機会さえ設ければ、高校生にも訴求するラインナップが整っていることがわかりました。

一度でも図書館で面白い本に出会えれば、その後の日常的な図書館利用にも繋がるようです。「おためし読書」による高校生向けの図書館利用導入が功を奏し、今年度高校生一人当たりの平均貸出冊数に増加がみられました。2020年度には高校全体で4.0冊だった貸出冊数が、2021年度は6.2冊と、2.2冊の増加となりました。入学後に図書館に触れる機会を保証し、普段の授業でも図書館を活用することが、高校生全体の読書活動を後押しすることが実証されました。



¹ 「おためし読書」は本のためし読みを行うワークショップです。限られた時間でたくさんの本に触れ、読みたい本に出会う確率を高めるのが目的です。生徒の図書館利用の導入として、清教学園中学で長年実践されています。

テーマ展示と「図書館だより」

時期	テーマ	担当
2021年4月	2020年度人気の本 & 貸出回数ゼロ(涙)でも面白い!	上河
5月	高校図書委員おススメ本	山根
6月	お腹がへる 飯テロ本	南
9月	覚え違いタイトル集	前野
10月	秋の夜長に、学園ミステリー	上河
11月	第6回大阪府中高生ビブリオバトル大会(中学生大会)20人のバトルが紹介した本	山根
12月・2022年1月	ことばの世界を探究する本	山崎
2022年2月	もちよりおためし読書	南

その他の特集展示・掲示

時期	テーマ	備考
2021年5月～	孔子 中学生でも読める『論語』	国語科 村井先生
6月～	自分の世界を広げてくれる入門書	英語科 富阪先生
7月～	山極寿一氏特集	国語科 村井先生
7月～	中3 ビブリオバトルチャンプ本	国語科でビブリオバトル実施
7月～	追悼 那須正幹さん	
9月～	中1 もちよりおためし読書	総合学習で実施後
10月～	ハンセン病	中学3年
11月～	クリスマスの本	
11月～	追悼 山本文緒さん	
11月～	ムーミンの本	映画『トーベ』公開に合わせて
11月～	日本古典文学	国語科 村井先生
11月～	聖書科 岡本先生おススメ本	『奥のほそ道』『これが人間か』
11月～	探究科 片岡先生著作本	『マイテーマの探し方』
2022年1月	千支・トラの本	
1月～	バレンタインデー特集	
2月	図書館クイズより 生徒のおススメ本	「〇〇で賞」として紹介
2月	直木賞受賞作品	『黒牢城』『塞王の楯』
3月	「ちいさいおはなし会」で紹介した本	中3「ちいさいおはなし会」実施
3月	吉川英治賞受賞作品	『やさしい猫』『スモールワールズ』

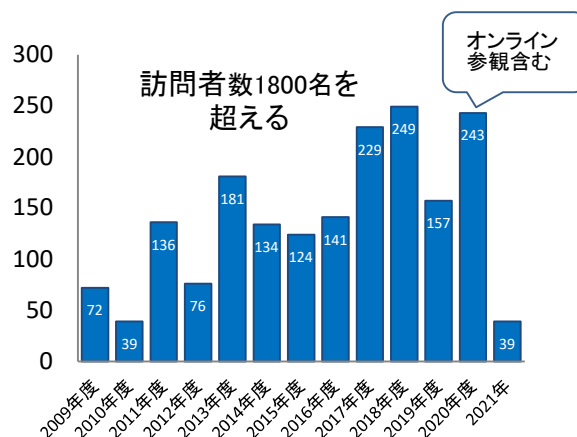
行事

2021年5月	第1回 リブラリアクイズ(参加14名)
5月	オンラインミーティング(学校図書館職員) 参加校:青翔開智 広島叡智 渋渋 ND 清心 ドルトン 浪商 津和野高校 水都国際 千里国際 清教学園
5月	オンラインほんトーク「おススメの本」(高校編) 参加校:渋谷教育学園渋谷 水都国際 青翔開智 千里国際 大阪体育大学浪商 津和野 ノートルダム清心 清教学園
5月	オンライン高校生直木賞全国大会参加(高校生1名)
6月	オンラインほんトーク「おススメの本」(中学編) 参加校:ドルトン東京学園 広島叡智 青翔開智 渋谷教育学園渋谷 千里国際 水都国際 清教学園
7月	第2回リブラリアクイズ(参加17名)
8月	対面でほんトーク プレゼンテーションブラッシュアップ

9月	有志 絵本読み聞かせ会 (参加13名)
9月	清教学園中2生企画 オンラインほんトーク「絵本」(青翔開智、昭和女子大学附属中・高) (7名+職員1名)
10月	第3回リブラリアクイズ (参加14名)
12月	オンラインほんトーク「冬を感じられる本」 参加校：昭和女子大付属中 青翔開智 清教学園
12月	宗教部・リブラリア共催クリスマス会 教師によるコンサート、ストーリーテリング、プラ板作り
2022年2月	フィルムブックフェスティバル 受賞&上映会オンライン参加 (3名)
2月	蔵書点検及び本の移動、除籍本の検討と譲渡
2月	第4回リブラリアクイズ (参加3名)
3月	総合学習研究発表会 動画作成、限定オンデマンド配信

訪問者 (敬称略)

2021年度の学園への訪問者は14件39名でした。コロナウイルスの感染拡大に加え、リモートでの行事がなかったため訪問者数は2010年以來の低水準となりました。しかし、累計訪問者数は1820名となり、2000名の大台が見えてきました。



	日付	人数	所属	代表者氏名	訪問目的
1	6月24日	2	高石市教育委員会事務局教育部	主幹 氏	探究学習視察
2	7月02日	4	放送大学	博士 氏	番組収録・取材
3	7月02日		NHKエデュケーショナル	氏	番組収録・取材
4	7月13日	10	関西21世紀社会科の会	氏	研修会、図書館見学、探究学習視察
5	10月28日	1	昭和女子大学付属昭和中・高等学校	氏	探究学習視察
6	11月15日	4	兵庫県立尼崎西高等学校	教頭 氏	ICT教育視察
7	11月19日	4	雲雀丘学園中・高等学校	教諭 氏	施設見学、教科視察、図書館・LC・総合見学
8	11月29日	4	同志社中学校	教諭 氏	探究学習視察
9	12月02日	5	宮崎県立宮崎西高等学校	教諭 氏	図書館・総合見学
10	1月26日	1	関西大学文学部総合人文学科	氏	探究学習視察
11	2月12日	1	松原市立天美西小学校	氏	探究学習視察
12	2月12日	1	大和高田市立土庫小学校	氏	探究学習視察
13	3月03日	1	関西テレビ放送株式会社	社長秘書 氏	感謝のおたよりのお礼
14	3月28日	1	大阪府立北かわち阜が丘高等学校	校長 氏	探究学習視察

中止になった企画

清教学園幼稚園「リブラリア探検」、地域の小学生向け「夏休み調べ学習教室」は、コロナウイルス感染症の状況を考慮し今年度も中止しました。次年度の開催に期待です。

研修等参加記録 ([]内は研修者) 22件・のべ27名

- ・4月9日(金) 第37期お話の講習会(東京子ども図書館) [南]
- ・6月 大阪府立中央図書館 国際児童文学館「講演と新刊紹介 2020年に出版された本」(オンライン) [上河]
- ・7月2日(金) 第37期お話の講習会(オンライン) [南]

- ・7月26日(月)大阪府子ども読書活動推進ネットワークフォーラム [山根]
- ・8月 大阪府図書館司書セミナー(オンライン)「大阪府立図書館の使い方」 [上河] [山根]
- ・8月 大阪府図書館司書セミナー(オンライン)「若手図書館職員のためのレファレンス入門」 [上河]
- ・8月 大阪府図書館司書セミナー(オンライン)「国立国会図書館のデータベース入門」 [上河] [山根]
- ・9月3日(金)第37期お話の講習会(オンライン) [南]
- ・9月18日(土)学校と社会をつなぐ調査 最終調査直前イベント「いま、学校と社会をつなぐとは」(河合塾) オンライン) [南]
- ・10月1日(金)第37期お話の講習会(東京子ども図書館) [南]
- ・11月 大阪府図書館司書セミナー(オンライン)「なぜ図書館が必要なのか〜テレビリサーチャーの仕事から〜」 [上河]
- ・11月 大阪府図書館セミナー(オンライン)「若手図書館員のための著作権入門」(オンライン) [上河] [山根]
- ・11月5日(金)第37期お話の講習会(東京子ども図書館) [南]
- ・12月 大阪府図書館司書セミナー(オンライン)「コロナ禍の中の地域×大学×図書館サービス」 [上河]
- ・12月 大阪市立中学校・高等学校図書館研究会研修会「学校図書館と著作権」(オンライン) [上河] [山根]
- ・12月3日(金)第37期お話の講習会(東京子ども図書館) [南]
- ・12月18日(土)「シンデレラ話の多様な世界を楽しもう」(大阪府立中央図書館) [南]
- ・1月 大阪府図書館司書セミナー(オンライン)「読書に困難のある子どもの早期発見(理解)と支援」 [上河] [南] [山根]
- ・2月4日(金)第37期お話の講習会(オンライン) [南]
- ・2月25日(金)河合塾 進路探究を考える会「探究学習は『自分は何者か』を問う学び:探究テーマと進路はつながるのか」(オンライン) [山根]
- ・3月4日(金)第37期お話の講習会(東京子ども図書館) [南]

雑誌・新聞記事・寄稿・WEB記事等 6件

- ・2021年6月 片岡則夫「野球をもっと楽しく!『野球で自由研究!コンテスト』野球殿堂博物館(図書館探訪記8)」『図書館の学校』2021年夏号
- ・2021年9月 片岡則夫「マンガ文化を守り手わたす 明治大学米澤嘉博記念図書館・現代マンガ図書館(図書館探訪記9)」『図書館の学校』2021年秋号
- ・2021年12月 片岡則夫「どぎゃんかせなん!学校図書館! NPO 法人ガット(図書館探訪記10)」『図書館の学校』2021年冬号
- ・2022年3月 片岡則夫「新刊紹介:アンソニー ティルク『国際バカロレア教育と学校図書館:探究学習を支援する』」『図書館界』Vol.73、No.6、March.2021[片岡]
- ・2022年3月 片岡則夫「生きて働く文化遺産 雑誌の図書館 公益財団法人大宅壮一文庫(図書館探訪記10)」『図書館の学校』2022年春号
- ・2022年3月 「『楽しい調べる学習はいずれ人生の糧に』探究学習の伝道師が、長年の指導体験を一冊に(『マイテーマの探し方:探究学習ってどうやるの』著者インタビュー)」『図書館の学校』2022年春号

外部講師・学会発表等(開催日・主催者「講座テーマ」会場、参加数[担当])29件・参加1236名

- ・4月6日13:00-14:30・14:45-16:15(90分×2)大阪大学箕面市船場図書館開館前研修「『ミニ調べる学習』実習:「学びたいことを学ぶ」のは、大変だけど楽しい」13名[片岡]
- ・5月1日(オンライン番組)図書館マルシェ「タラントん賜物をいかす探究学習2008-2016:全9クラス・358名の学び」120名[片岡]

- ・5月7日(60分リモート)ライブラリーアカデミー「学校図書館とICT:“文房具”使いこなそう」参加者数不明[片岡]
 - ・6月9日(90分)紀の川市教育委員会@粉河ふるさとセンター「総合的な学習の時間探究学習ははじめの一步「ミニ調べる学習」:教科でも学べる情報モラルと著作権」46名[片岡]
 - ・6月18日15:30~17:00(90分リモート)茅野市こども読書活動応援センター「調べ学習コンクールに向けて:司書教諭・学校司書・担任の指導ふだんの授業でなにができる?」36名[片岡]
 - ・7月10日(120分一部リモート)学校図書館園国連絡会@日本図書館協会 第24回「ひらこう!学校図書館」 「学校図書館はなにを目指すか:自由な学び・読書を支えるインフラ」80名[片岡]
 - ・7月22日(270分)熊取町図書館「第8回 調べる学習応援講座2021」 12名[片岡]
 - ・7月27日(120分)熊取町教育委員会「楽しさ再発見!学校図書館を使った授業:『ブックハンティング』『ミニ調べる学習』『みんなで調べる学習』」9名[片岡]
 - ・7月28日13:30~15:00(90分リモート)立川市教育委員会「インターネットで調べることと、本で調べること:ふだんの授業でなにができる?」47名[片岡]
 - ・7月30日10:00~12:00(120分)高石市教育委員会「探究学習ははじめの一步:『みんなで調べる学習』から『ミニ調べる学習』へ」20名[片岡]
 - ・8月2日13:15~15:00(1時間45分)千歳市学校図書館スタッフ研修「調べ学習・探究学習ははじめの一步:ふだんの授業でなにができる?」46名[片岡]
 - ・8月19日15:00~17:00(120分リモート)豊見城市立図書館「学校図書館とどう連携するか:楽しい調べ学習・探究学習を通じて」23名[片岡]
 - ・8月31日15:00~17:00(2時間)守口市立金田小学校「楽しさ再発見!学校図書館を使った授業:『ブックハンティング』『ミニ調べる学習』『みんなで調べる学習』」23名[片岡]
 - ・9月15日大阪市子どもの読書活動推進連絡会@大阪市立中央図書館 83名[片岡]
 - ・9月21日(2時間オンデマンド)長野県教育委員会「学校司書と学校図書館にできること:小論文と探究学習への支援学校司書」約83名[片岡]
 - ・10月22日一般財団法人日本私学教育研究所「『主体的・対話的で深い学び』を通じ、生徒の賜物を育む探究学習の教育効果に関する研究」ザ・プリンス京都宝ヶ池、63名[南]
 - ・11月8日第7回図書館レファレンス大賞最終審査会[片岡]
 - ・11月10日15:40~16:30(50分)熊取市北中学校「学校図書館に係る学び:調べ学習・探究学習ははじめの一步から」70名[片岡]
 - ・11月18日(40分)守口市立穂積小学校学校「図書館を通じ主体的に表現する:本との出会いを楽しもう」50名[片岡]
 - ・11月30日(50分)富田林市立喜志市小学校「学校図書館を通じ主体的に表現する:本との出会いを楽しもう」40名[片岡]
 - ・12月6日15:00~17:00(120分)交野市立第一中学校「学校図書館を充実・活用する授業:調べる学習ははじめの一步」30名[片岡]
 - ・12月22日10:30~12:00 茨木市教育委員会スクールサポーター冬季研修会「図書館支援読書・調べる学習を支援する:図書室の環境整備」45名[片岡]
 - ・1月12日14:50~16:20(対面/リモート)第58回 岡山県高等学校教育研究会 学校図書館部会研究協議会「探究的な学びにどのような学習環境が必要か:生徒の興味と関心に寄り添う組織体制と図書館づくり」岡山県立倉敷南高等学校、52名[山崎]
 - ・2月16日(120分リモート)船橋市学校司書研修「ICTが多様な学びと学校図書館を支える」参加者数83名[片岡]
 - ・2月25日16:30~18:00(リモート)河合塾 進路探究を考える会「探究学習は『自分は何者か』を問う学び:探究テーマと進路はつながるのか」96名(回線)[片岡]
 - ・2月25日兵庫県立図書館スキルアップ講座「YA世代の選書について」(オンライン)20名[南]
 - ・2月28日(90分オンデマンド)札幌市中央図書館中学校学校司書研修「おいでよ!楽しい学校図書館」参加人数不明[片岡]
 - ・3月11日15:00~17:00(120分)品川区立図書館研修@品川区立大崎図書館分館「『おーい、ティーンズ!』:どうするヤングアダルトの利用促進」46名[片岡]
- ・文部科学省 令和3年度「学校図書館の活性化に向けた調査研究」委託事業 実施校指定「なぜ探究学習で学校図書館が活用されないのか:探究学習と図書館活用のギャップを埋める授業実践の検討」補助金10万円

出版・印刷物等

- ・2021年9月 片岡則夫「『ちくまQブックス』で洞窟探検にでかけよう！」PR誌『ちくま』2012年10月号
- ・2021年11月 片岡則夫『マイテーマの探し方：探究学習ってどうやるの』（ちくまQブックス）

VI 課題

スタディホールの総合学習室化問題：スタディホールの利用状況アンケート

昨年度の図書館事業報告でもお知らせしましたとおり、図書館は現在の場所に設置された当時から蔵書が3倍になり、床面積は変わらないという現状です。

図書館の配架は飽和状態でありブックトラックを利用するなど、工夫していますが、横倒しで飛び出した本、本棚上にも配架するなど、開架書架の現状は大変危険で、いつ事故が起こらないとも限りません。書庫の収容冊数は全体の20%にもならず、早急な抜本的解決が必要です。

以上の理由から、収容冊数を増やすため、スタディホールの総合学習室化を検討しています。そこで、現状スタディホールがどのように利用されているのか、教職員にアンケートを実施しました。

アンケート概要

回答受付期間：2022年3月19日(土)合同職員会議時～30(水)

回答数：39人(中学所属17人、高校所属21人、無所属1人)

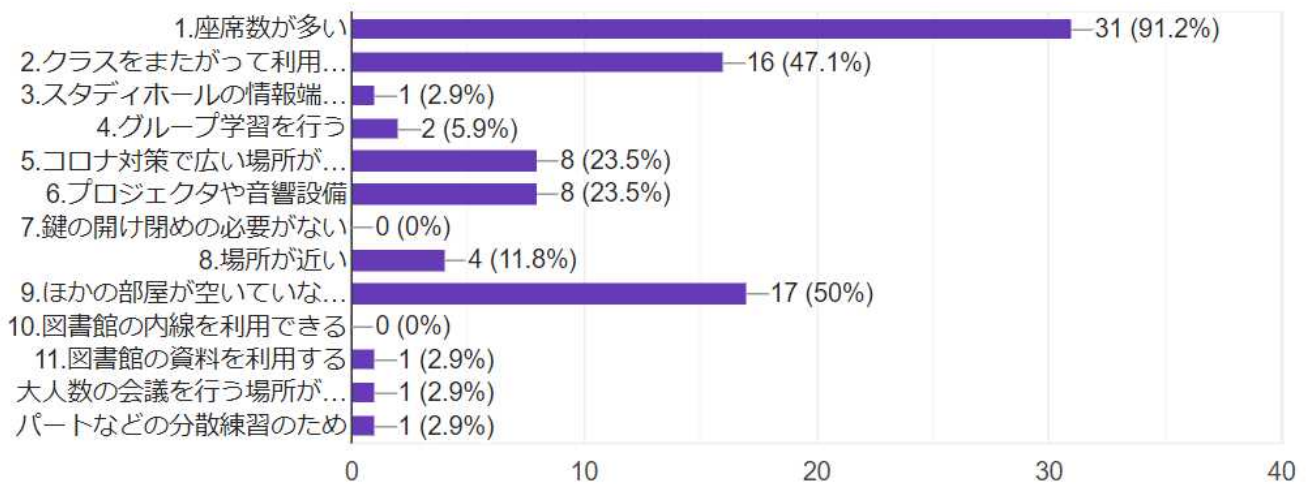
1. スタディホールをどのような目的で、どのような頻度で利用しているか

	授業	放課後の居残り/補講/追試等	委員会活動など	その他
定期的に利用している	2	7	4	2
よく利用している	2	2	1	0
ときどき利用している	26	25	24	24
合計	30	34	29	26

「その他」の利用としては、職員会議、部活動のミーティングや保護者会、生徒との面談、行事、降誕劇練習、国際交流ガイダンス、情報端末設定があげられました。

2. どのような事情でスタディホールを利用しているか

34 件の回答



スタディホールを利用する理由としては、やはり大人数での利用需要が大きいようです。スタディホール（現在 109 席）のほかの大教室としては、レクチャールーム（110 席）、ラーニングcommons（96 席）があります。

このほか、自由記述として、「職員室から近い。そして広い。こっそりと相談を聞くにしても、広い部屋の方が生徒は安心すると思う」「英会話の授業でスタホ端末を利用するために使っていましたが、自分の端末もあり Wi-Fi も強化され HR 教室でも賄えると思います」という意見もありました。

業務量増加によるカウンター司書不在問題

人手不足・業務量増加が「放課後のカウンターに人がいなくなる」という形で表れてきました。本校の放課後の利用状況では、少なくとも 2 名はカウンターに常駐していることが求められます。

カウンターに司書が不在では生徒の求めに十分にこたえられません。具体的には卒業論文等のレファレンスの機会が失われます。また、手続きができなければ貸出・返却をあきらめる場合もあります。さらに、本を持ち出し、結果として紛失本が増える可能性もあります。

なぜ、放課後にカウンターに人がいなくなるのか。その要因は、業務量の増加と人手不足です。業務量の増加は、ラーニングcommonsの運用業務、探究学習の増加による図書館の利用増、レファレンス増によるものです。人手不足は、片岡先生の雇用形態の変化に対する人員の不補填、山崎先生の育休・時短勤務によるものです。

これまで、それぞれの裁量と工夫でサービスの質を落とさないよう努力してきました。しかし、今年度はその努力も限界に達しました。今後、探究学習をメインにした新指導要領の展開に応じて業務増が当然予想されます。サービスの質の維持・向上のため、早急な人の補填と育成が必要です。

Ⅶ 図書館リブラリアの歩み 2002～2021

年度	主なできごと
2002年 (平成14年)	・現在地に図書館が移転。天井の高いホールを区切り、1階に図書館、2階に120席のスタディーホールが生まれる。同時に、それまで図書館であった教室が、総合学習室としてリニューアル。
2007年 (平成19年)	・専任司書教諭着任、探究科創設・専任教諭着任 ・事業報告の刊行・統計資料の充実開始 ・総合学習等で年間約400時間の利用 ・図書廃棄基準を定め、1176冊を除籍
2008年 (平成20年)	・蔵書管理に「ライブマックス」、書誌情報のために「Tool-i-S」を導入 ・レファレンス資料用の低書架を増設、スタディーホールに書庫増設 ・レファレンス低書架を増設、文庫棚・ビデオ棚・傾斜棚を導入 ・生徒用検索端末2台を設置 ・貸出冊数を2冊から5冊に増加
2009年 (平成21年)	・貸出冊数32278冊、2006年度と比較しておよそ10倍弱 ・年度当初のオリエンテーション開始 ・貸出冊数を5冊から10冊に増加 ・図書購入の見計らい開始 ・雑誌棚を新設、L型低書架スタディーホールに導入、総合学習室文具棚を改造 ・第13回「図書館を使った調べる学習賞コンクール」探究科論文が文部科学大臣奨励賞・活字文化推進会議賞を受賞
2010年 (平成22年)	・大阪府下貸出冊数一位を記録 ・貸出冊数を10冊から20冊に増加 ・第14回「図書館を使った調べる学習賞コンクール」探究科論文が文部科学大臣賞・日本児童図書出版協会賞を受賞 ・「NRI学生小論文コンテスト2010」にて探究科論文が大賞受賞
2011年 (平成23年)	・清教学園60周年記念事業「『探究的な学習』が賜物を生かす」開催 ・文部科学省「読書活動優秀実践校」表彰
2012年(平成 24年)	・貸出冊数が増加、4万冊を突破 ・「がんばった学校支援事業」補助金交付 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」受賞 ・読売新聞「教育ルネサンス」(全国版)掲載 ・中学新入生向けの「すくど文庫」はじまる
2013年 (平成25年)	・文部科学省委託助成研究が終了 ・『なんでも学べる学校図書館をつくる』少年写真新聞社より出版 ・国際子ども図書館「調べものの部屋プロジェクト」への参加
2014年 (平成26年)	・第44回「学校図書館賞」大賞を受賞 ・図書館振興財団の助成決定：デジタルアーカイブ化はじまる ・スタディーホールに書架を増設：収納量3000冊増 ・学級文庫「すくどの本」を中学各教室に設置：3000冊が読まれる
2015年 (平成27年)	・第9回高橋松之助記念「朝の読書大賞」を受賞 ・生徒作品のデジタルアーカイブ化が実現 ・第17回図書館総合展にブース出展 ・国会図書館「レファレンス協同データベース」に参加 ・ツイッターによる情報発信を開始
2016年 (平成28年)	・ポスターセッションによる中学卒業研究発表会を開催 ・ラーニングコモンズ開室 ・「本をつなげるプロジェクト」はじまる ・リブラリア書架・総合的学習室ロッカーを各種賞金で増設 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」9年連続入賞 ・教育課程の変更により探究科終了
2017年 (平成29年)	・リブラリア訪問者数累計1100名を突破 ・清教学園幼稚園生による「リブラリア探検」開始 ・『なんでも学べる学校図書館をつくる2』少年写真新聞社より出版 ・ラーニングコモンズ本格稼働 利用者約3000名 ・有志探究活動「清教アカデミカ」はじまる ・統計グラフコンクールに初入賞
2018年 (平成30年)	・訪問者新記録・累計1300名を突破 ・講談社現代新書『中高生からの論文入門』発刊 ・『探究科の記録2008～2016』まとまる ・中3卒業研究“論文形式”に進化 ・私学教育研究所委託研究決定
2019年 (令和元年)	・新型コロナウイルスの影響甚大：3月休館・卒業論文発表会中止 ・私学教育研究所委託研究実施 ・小学生向け「夏休み調べ学習教室」初の開催
2020年 (令和2年)	・10年来の課題「蔵書スペースの限界」：総合的学習室の図書館化を提案 ・文部科学省の学校図書館事例集にWeb公開される ・コロナ禍とリブラリア：開館日数減少の中で工夫続く ①WebOPAC構築と予約サービス開始 ②トークライブ & 動画配信企画 ③全国の県立・私立の学校図書館との連携行事「ほんトーク」中学編、高校編開催
2021年 (令和3年)	・貸出冊数回復：清教中は公立中の5.6倍 ・卒業論文「なんでもやねん」の授業から『マイテーマの探し方：探究学習ってどうやるの』生まれる ・文科省「令和3年度学校図書館の活性化に向けた調査研究」事業実施校として研究・報告 ・全国の学校図書館との連携行事「ほんトーク」、学図研ニュースに掲載 ・図書館の配架は飽和状態一層深刻化。

巻末付録

文科省「令和3年度 学校図書館の活性化に向けた調査研究」委託事業

なぜ探究学習で学校図書館が活用されないのか
－ 探究学習と図書館活用のギャップを埋める授業実践の検討 －

【報告書概要版】

「学校図書館の活性化に向けた調査研究」委託事業

令和3年度事業
(学校法人 清教学園)
委託費99,200円

課題

取組実施校では図書館を活用する中高生の論文指導などを長く実践。中等教育における学校図書館活用事例としては、ある程度の到達点を迎えていた。

しかし一方で、校内他教科等における図書館活用は成功例が少ない。わけても、生徒の主体的な研究活動を柱とし、探究学習として位置付けられる高等部の授業実践「Global Studies」に対しては、幾度かの授業支援も実らず、生徒・担当教員ともに図書館活用実績が少ない。

学習環境の整った学校図書館が校内にありながらも、なぜ「探究」を銘打った授業で図書館が活用されないのか。生徒・教員それぞれの面から調査・分析し、利用促進を図る必要がある。これにより、生徒の学びをより「主体的・対話的で深い学び」へ近づけることを目指す。

事業のねらい

清教学園高校2年次の探究学習「Global Studies」に対し授業支援を行う。授業実践と生徒・教員から得たデータ分析により、以下3点の効果・成果を見込んだ。

- ① 高等学校の探究型学習にて、学校図書館機能(図書資料や図書館スタッフ)が使われ辛い理由を明らかにする
- ② 上記①に対してどのような授業設計や資料支援体制が必要かを検討。検討結果を授業で実践する
- ③ 上記②の効果を検証し、学校図書館が探究型学習に対して行う効果的な資料支援体制を開発する

取組実施校

学校法人清教学園
清教学園中・高等学校
所在地:大阪府河内長野市末広町623
事業担当者:山崎勇気
生徒数:中学/475名(12学級) 高校/1179(29学級)
取組実施対象:高2/401名(10学級)

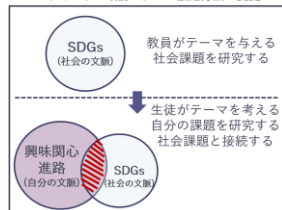
図書館名称:総合図書館 清教リブラリア
蔵書冊数:70833冊
スタッフ:専任職員3名/非常勤講師3名

過去実績:
2011年 文科省「読書活動優秀実践校」学校図書館大賞
2014年 全国学校図書館協議会第44回「学校図書館賞」大賞
2015年 第9回高橋松之助記念「朝の読書大賞」
2013・17年 片岡ほか『なんでも学べる学校図書館をつくる1・2』(少年写真新聞社)出版
2018年 片岡剛夫『中高生からの論文入門』(講談社現代新書)出版
2021年 片岡剛夫『マイテーマの見つけ方 探究学習ってどうやるの?』(ちくま新書)出版

実施内容

① カリキュラム改訂 / 教材開発

カリキュラム改訂:テーマ設定方法の変更



10学級のうち4学級の授業を司書教諭が担当。授業担当者として直接関わることで、授業設計段階から図書館活用を提案できる体制を構築。

教員主体のテーマ設定から、生徒の興味・関心を主体とする研究テーマ設定に変更され、図書館の多様な蔵書の活用に繋がった。さらに、図書館活用を促進する教材を開発。資料のため読み、資料探索の方法等を指導した。

② 授業中の常時レファレンス体制



司書教諭が授業を担当する学級は、通常教室でなく図書館横の特別教室(総合学習室)で実施。生徒・教員共についても図書館を活用できるようにした。さらに日常の机間指導では、生徒の研究進捗を把握しつつレファレンスを行った。

年間を通じ生徒の興味関心と蔵書を繋ぐことに注力。司書教諭との関わりにより、生徒が図書館機能を気兼ねなく使えるようになった。

③ 教科教員に対する事前・事後ヒアリング

探究学習における担当教員の「コスト意識」

	生徒に求める理想像	生徒及び指導の実態
取組みの態度	自ら主体的に学んでほしい	社会課題に興味がなく主体的に学ばない →ある程度仕方ない
時間的制約	授業外でも積極的に取り組んでほしい	部活と主要教科の学習で忙しい →課題は授業時間で済むよう授業設計
資料活用	安易なWeb利用に頼らず図書も活用してほしい	図書館機能の活用は時間がかかる →適切なWeb利用で資料活用を助きたい

協働する担当教員に事前ヒアリングを実施。教員にとっても図書館機能は扱い辛く、活用することの意義・メリットを見出せていないことがわかった。この結果から、今年度の授業カリキュラム改訂と教材開発の方策を練った。

さらに年度末には事後ヒアリングを実施。授業に対する図書館の関わりが、教科教員の内にどのような実感として現れたかを調査した。

④ 成果物/利用統計/生徒アンケートから実践効果を検証



以下3つの観点から、取組の効果を検証した。

- ① 学習成果物から参考文献の状況を分析
- ② 図書館の利用統計から貸出冊数を分析
- ③ 生徒に対する振り返りアンケート調査

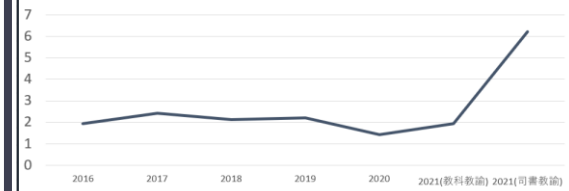
これら統計データを当該学年だけでなく、前年度までのデータ、現高1生(改訂以前の旧カリキュラムを実施)のデータ、現中3生(図書館を活用して卒論執筆)のデータと比較を行い検証した。

成果

- ① 一人あたりの年間貸出冊数が増加
高2生の貸出統計を比較。司書教諭担当学級では前年より4.8冊増加した。(生徒が研究に使用した0~8類を対象に分析)

	2020年度	2021年度	2021年度
		教科教諭担当学級	司書教諭担当学級
一人あたり年間貸出冊数(ノンフィクション)	1.4	1.9	6.2

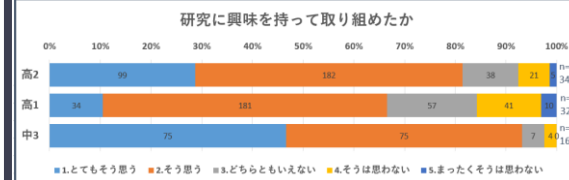
一人あたり年間貸出推移/ノンフィクション(過去6年)



- ② グループあたりの「参考図書」増加
高2生学習成果物の「参考文献一覧」を比較。記載図書冊数が、司書教諭担当学級では前年度より5.1冊増加した。

	2020年度	2021年度	2021年度
		教科教諭担当学級	司書教諭担当学級
図書資料数	0.2	0.8	5.3
Web資料数	2.7	4.1	2.0
資料合計数	2.8	4.9	7.2

- ③ 生徒主体の研究テーマ設定であるほど、「主体的に取り組む態度」が向上した
テーマ設定方法の異なる3学年の履修アンケート結果を比較。生徒主体の研究テーマ設定であるほど、興味関心、分野題材への理解、参考文献数、図書とWebの意識的使い分けといった「主体的に取り組む態度」の向上がみられた。



文科省「令和3年度学校図書館の活性化に向けた調査研究」事業実施校として研究・報告

文科省の委託研究事業に参加。「なぜ探究学習で学校図書館が活用されないのか:探究学習と図書館活用のギャップを埋める授業実践の検討」をテーマに、1年間の実践研究を行いました。

清教学園は図書館を活用する中高生の論文指導などを長く実践。中等教育における学校図書館活用事例としては、ある程度の到達点を迎えていました。しかし一方で、校内他教科等における図書館活用は成功例が少ない現状です。中学生と比較した場合、高校生の図書館利用が少ない事は長年の課題でした(本稿 p.2 参照)。わけても、生徒の主体的な研究活動を柱とし、探究学習として位置付けられる高校の授業実践「Global Studies」に対しては、幾度かの授業支援も効果的な活用事例として実らず、図書館活用実績がほとんどない状況でした。

学習環境の整った学校図書館が校内にありながらも、なぜ「探究」を銘打った授業で図書館が活用されないのか。生徒・教員それぞれの面から調査・分析し、利用促進を図る必要があります。これにより、生徒の学びをより「主体的・対話的で深い学び」へ近づけることを目指しました。

調査研究の対象は、高校2年生の授業「GlobalStudies II」です。この探究学習型授業に対して、図書館からの資料支援活動を行いました。授業担当者3名(社会科/聖書科/司書 各教諭1名)が通年の授業体制を敷きました。さらに、学外有識者1名(放送大学准教授 塩谷京子氏)を含む、授業効果の分析会議を設置。実践と、履修生徒から得たデータを分析し、以下3点の効果・成果が得られました。

① 学校図書館機能(図書資料や図書館スタッフ)が授業担当者や履修生徒に活用され辛い理由を明らかに

2021年度始めに、授業者である教科教員に対してヒアリング調査を行いました。結果、右図に示すような授業者の意識が明らかになりました。

探究学習において、授業者は生徒に「主体的に学んでほしい」と願っていました。ここでいう「主体的」な学習態度には、もちろん図書館活用も含まれます。しかし一方で、生徒と授業をめぐるいくつかの状況により、授業者は図書館活用を授業カリキュラムに取り入れることに、積極的な意義を感じていないことがわかりました。時間・空間・指導的制約のある授業という場で図書館を活用することは、授業者にとって「コストが高く」感じていたようです。教科教員へのヒアリングから得た意見をまとめると、以下のようになります。

	生徒に求める理想像	生徒及び指導の実際
取組みの態度	自ら主体的に学んでほしい	社会課題に興味がなく主体的に学ばない →ある程度仕方ない
時間的制約	授業外でも積極的に取り組んでほしい	部活と主要教科の学習で忙しい →課題は授業時間で済むよう授業設計
資料活用	安易なWeb利用に頼らず図書も活用してほしい	図書館機能の活用は時間がかかる →適切なWeb利用で資料活用を賄いたい

A. 社会課題をテーマに扱う探究学習は、一定の割合で「主体的に学べない」生徒がいるのは仕方ないと考えている。(生徒にとって身近なテーマではないため、興味が沸かない)

B. 生徒は部活や主要教科(受験科目)の学習に忙しい。このため探究のような授業は、生徒の課題負担を抑え、授業時間内で可能な限り課題が済むように意識すべきである。

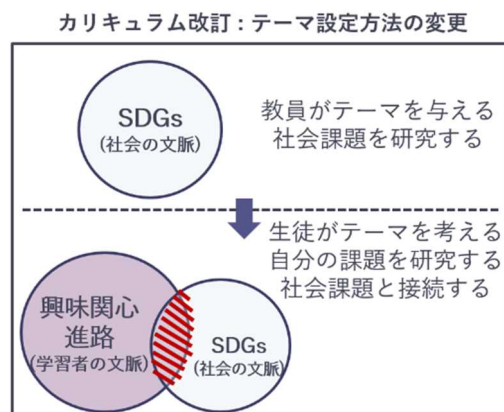
C. 図書館機能の活用は、多くの場合授業外での資料探索や読書が必要になる。このため「一部の主体的な生徒」が図書館を使うのは構わないし、それを推奨したいが、全体への指導においては、図書よりもWeb資料の扱いを生徒に学ばせ、自身の情報端末で課題作成が済むようにしたいと考えている。

上記3点により、積極的な図書館活用が授業カリキュラムに落とし込まれていない現状と、授業担当者や履修生徒が図書館機能を活用辛い理由が明らかとなりました。

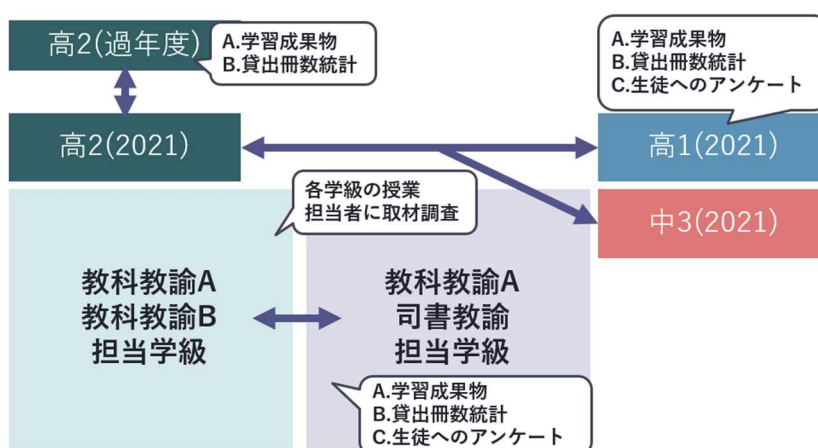
② 上記①の課題に対し、どのような授業設計や資料支援体制が必要かを検討。学校図書館が探究学習に対して行う効果的な資料支援体制を開発し授業で実践

生徒が主体的学びに向かわない、研究テーマに興味を持っていない原因として、教員主体のテーマ設定に原因があると考えられます。そこで今年度の授業では、前年度まで実施していた「SDGs」のような社会的文脈からのテーマ設定を見直しました。まずは「自分の興味・関心・進路・キャリア」といった、学習者自身の文脈からテーマ設定を行い、ある程度研究が進んだのちに、社会課題との接続を検討するようにしました。換言すれば、授業担当者が生徒にテーマを与える探究活動から、生徒自身が自らの進路(興味・関心)に基づきテーマを設定する探究活動へ、授業カリキュラムの改訂を行ったといえます。

さらに、一部のクラスでは司書教諭が授業を担当しました。また当該クラスの授業は、図書館に併設された特別教室で行いました。これにより、生徒への基本的な図書館活用指導、授業中の自由な図書館探索、司書教諭による常態的なレファレンス支援が可能に。図書資料を活用するための最もよい学習環境を構築しました。授業中の机間指導では、生徒の研究進捗を把握しつつレファレンスも兼ねます。一年間を通じ、生徒の興味関心と蔵書を繋ぐことに注力。司書教諭との関わりにより、生徒が図書館機能を気兼ねなく使えるようになりました。



③ 上記②の効果を3つの観点(A. 図書館の利用統計から貸出冊数を分析/ B. 学習成果物から参考文献の状況を分析 / C. 生徒から得た振り返りアンケート分析)から検証



実践の効果を検証するため、上図に示す比較対象・比較方法を用いました。既に図書館活用が軌道に乗っている中3卒業論文「なんでやねん」と、同じく探究学習と位置付けられる高1「Global Studies I」、カリキュラム改訂以前の過年度高2のデータが比較対象とし、さらにこれら学習グループの「授業アンケート」(主観評価)、「図書館利用統計」「学習成果物」(客観評価)を調査し、比較しました。今回の調査結果をまとめると以下の通りです。

・司書教諭担当学級では、一人あたりのノンフィクション年間貸出冊数が6.2冊となった。(前年度より4.8冊増 / 他学級より4.3冊多)

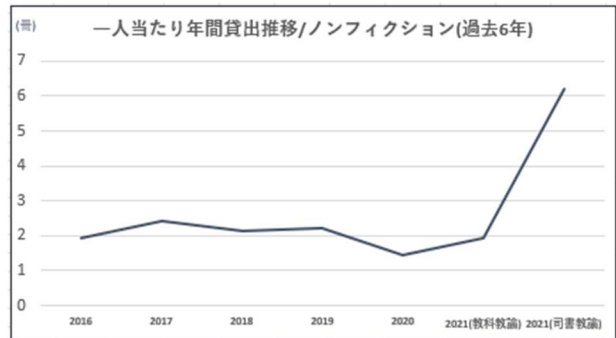
・司書教諭担当学級では、グループの学習成果物「参考文献一覧」に記載された図書資料が5.3冊となった。(前年比5.1冊増 / 他学級比4.5多)

・テーマ設定のイニシアチブが生徒にあるほど、学習活動は主体的になり、図書館や図書を用いた探究活動に向かうという結果が得られた。「研究に興味をもって取り組んだか」「学んだ題材・分野に対する基本的事項を理解しているか」「研究に必要不可欠だった(図書/Web)資料はあるか」などの設問に関して、中3卒業論文の肯定的意見が最も多く、次いで高2、高1へと否定的意見が増えていった。

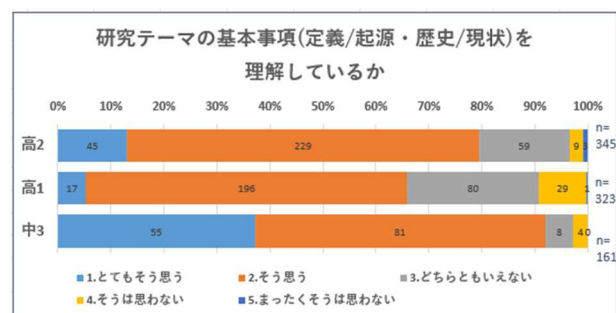
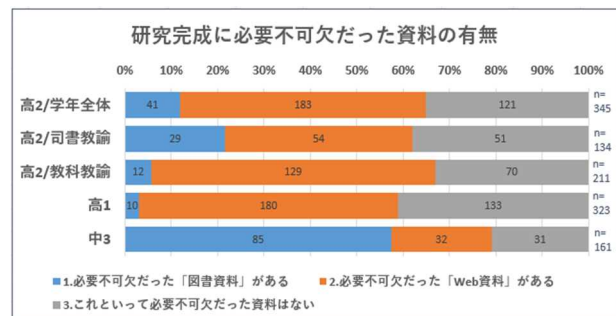
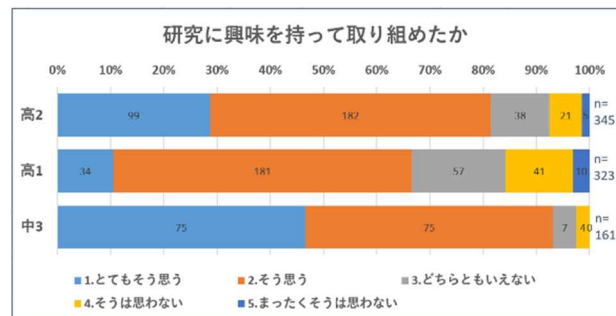
以上調査結果全体から、生徒自らが自身の興味・関心に基づきテーマ設定する授業こそが、探究学習を活性化し、生徒が主体的に学ぶことがわかりました。図書館の多様な蔵書を活かすのは、生徒の多様な興味関心に基づいてテーマ設定です。テーマ設定のイニシアチブが教員にある探究学習では、生徒は主体的になり辛く、図書館活用も促進されません。

また、年間を通じた司書教諭の授業支援が、貸出冊数の大幅な増加という形で実りました。このことから、生徒の興味・関心や、探究テーマを考慮した上での司書教諭によるレファレンスこそが、主体的な図書館活用に繋がるのがわかります。授業担当者として司書を配置する、或いは図書館をいつでも頼れる場所として授業の中に位置づけることこそが、生徒に図書館活用を促し、多様な研究テーマの発想に影響を与え、結果的に主体的な学習へと後押しすることもわかりました。

今回の調査結果からは、他にも示唆に富む自由記述回答が多く得られました。とりわけ、中学時代に図書館を用いて卒業論文を書いた授業と、高1の授業を比較する生徒の意見や、司書教諭との関わりによって、どのように図書館活用の重要性に気が付いたかを書く高2生の意見が多く得られました。これら自由記述回答や、今回扱わなかった他の数的データの詳細な分析は、現在別途執筆中の研究論文に譲ります。本稿ではその概略のみを示し、報告を終えます。



	2020年度	2021年度 教科教諭担当学級	2021年度 司書教諭担当学級
図書資料数	0.2	0.8	5.3
Web資料数	2.7	4.1	2.0
資料合計数	2.8	4.9	7.2





総合図書館 清教学園リブラリア
2021 年度事業報告

発行日:2022 年 5 月 23 日

著者:清教学園中・高等学校 図書館教育

印刷・製本:清教キャンパス

連絡先:

〒586-8585 大阪府河内長野市末広町 623

TEL 0721-62-6828

本報告の内容は、すべて学校法人清教学園に属します。
無断での複写・複製・転載を禁じます。